

「特別活動」(学級活動) 学習指導案

日時:平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇)〇校時

指導者:教諭・〇〇〇〇(〇〇市立〇〇中学校)

場所:〇年〇組教室(男子〇〇名、女子〇〇名)

1 題材名 「熊子の憂鬱(パワーポイント教材)」(自己表現とコミュニケーション能力)

内容(2)適応と成長及び健康安全 オ 望ましい人間関係の確立

2 生徒の実態と題材について

平成25年11月の内閣府の調査によると、中学生の携帯電話の所持率は51.9%で、そのうちスマートフォンの所持率は47.4%である。平成24年11月の調査と比較すると、携帯電話の所持率はほとんど変わらないが、そのうちのスマートフォンの所持率はわずか1年半で25.3%から47.4%へと約2倍にも伸びている。

生徒の携帯電話、特にスマートフォンの使用の実態は、自分で使用する時間をコントロールしたり、インターネット機能の特性を理解して自分の個人情報が出ないよう注意し、他人に迷惑をかけるような情報を流通させない、といった情報モラルが身についていない生徒が多く、保護者も家庭内のルール作りやフィルターの設定の大切さに対する意識が薄く、「便利だ」と言うだけでその危険性を知らずに使用している実態がある。

本時の題材である「熊子の憂鬱」はLINEによるネットいじめを取り上げたものであるが、このことは、最近のニュースでも注目され、問題視されている話題である。情報モラルの指導だけではなく、いじめが発生する根幹にある自己表現力とコミュニケーション能力を育てていくことが急務であると考えられる。

3 評価規準

望ましい人間関係の確立への 関心・意欲・態度	望ましい人間関係の確立への 思考・判断・実践	望ましい人間関係の確立への 知識・理解
・望ましく、円滑な人間関係の確立に関心を持ち、自己表現力やコミュニケーション能力を高めようとしている。	・学級や学校内、家庭、地域など人間関係について振り返り、その集団の中での行動や生き方について考え、判断し、望ましい人間関係を確立しようと実践している。	・人間関係を形成する力や他者への思いやりや正義感、連帯感や協力心などについて理解している。 ・情報モラルや自己表現力、コミュニケーション能力などについて理解している。

4 本時の目標

- ・スマートフォンのアプリ「LINE」の使用によって生じた「ネットいじめ」の事例から、人によって心の声(受け取り方)が違ふことを知り、心の声(受け取り方)を変えることで、感情をコントロールする方法を理解する。また、相手の状況を想像することによっても、感情をコントロールできることを理解する。

5 本時の展開

	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等
導入	○アイスブレイクのために、情報の拡散を体感する活動を行い、個人情報や他人に迷惑をかける情報の拡散が、いかに重大なことかを理解する。	○全員起立する。紙を渡された生徒は、その紙を半分に切って、その紙を他の人に渡した後、着席する。紙を受け取った生徒は、さらにその紙を半分に切り、まだ起立している他の人に渡して、着席する。紙を渡す人がいなくなるまで行う。	○活動が終わった後、この活動がインターネット上の情報の拡散を体感するためのものだったことを説明し、①インターネット上の情報が大変な早さで拡散すること、②情報が個人情報や他人に迷惑をかける情報であった場合重大な事態になることを、生徒に気づかせる。	

	○今、スマートフォンのSNSとして中学生にも用いられている「LINE」について、この授業で考えていくことを予告する。	○教師の話から、授業で「LINE」について考えていくことを理解する。	○授業内容についての予告は、簡潔なものにとどめる。
展 開	<p>[パワーポイント教材]「熊子の憂鬱」</p> <p>クラス替えで仲のいい友達と離れてしまった熊子は、学級で孤立していた。そんなとき、同じ学級のウサ子が熊子に「LINE」仲間にならないかと、声をかけてきた。熊子はウサ子と「LINE」でやりとりするようになる。ところが、ウサ子が「LINE」上にチェリ子の悪口を書き、熊子に同意を求めてきた。チェリ子の悪口を書きたくない熊子は、ウサ子の書き込みに対して反応しなかった。これに腹を立てたウサ子は、「LINE」仲間の中で熊子の悪口を書き始め、熊子が「ネットいじめ」のターゲットになってしまう。思い悩んだ熊子は引きこもるようになり、学校に戻れなくなってしまった。</p>		
	○パワーポイント教材「熊子の憂鬱」を見る。	○パワーポイント教材「熊子の憂鬱」を見る。	○ナレーションと画面の「LINE」上のやりとりを読みながら、パワーポイントのスライドを映写していく。
	<p>(1) 物語に出てきた登場人物の「LINE」のやりとりで気になったことを、思いつくぶん書き出してみましょう。</p> <p>(2) 書き出したことを、同じ班の人たちに紹介しましょう。</p>		
	○「熊子の憂鬱」を見て考えたことを、ワークシートに記入し、同じ班の班員に自分の考えを紹介する。	○「熊子の憂鬱」を見て考えたことを、ワークシートに記入し、同じ班の班員に自分の考えを紹介する。	○班の中での紹介が終わったら、「ウサ子が、チェリ子の悪口を書き込んだこと」「まる子が、熊子に対するウサ子の悪口に同調したこと」など、様々な考えが出たことを確認した上で、今後の学習では、「ウサ子が熊子の既読スルー（KS、既読無視）に腹を立てたこと」に着目していくことを説明する。
	<p>(3) 物語では、ウサ子が熊子の既読スルー（KS、既読無視）に腹を立てていましたが、もしあなたが「LINE」で相手とやりとりするとき、自分の書き込んだことが既読されているのに相手から返信が来ないとしたら、どのような心の声が出ているのか（受け取り方をしているのか）に耳を傾けて、思いつく分書いてみましょう。そして、そのとき感じている感情は何かも、思いつく分書いてみましょう。</p> <p>(4) 同じ班の人たちに、書き出したことを紹介してみましょう。</p> <p>(5) 班の中で出た意見を発表しましょう。</p>		
○「LINE」のやりとりで、自分の書き込んだことが既読されているのに相手から返信が来ないとき、どのような心の声が出ているのか（受け取り方をしているのか）、そのとき感じている感情は何かをワークシートに記入し、同じ班の班員に書き出したことを紹介する。班の中で意見をシェアした後、班の意見を全体に向けて発表する。	○「LINE」のやりとりで、自分の書き込んだことが既読されているのに相手から返信が来ないとき、どのような心の声が出ているのか（受け取り方をしているのか）に耳を傾けて、ワークシートに記入する。 ○続いて、そのとき感じている感情は何かも、ワークシートに記入する。 ○ワークシートに記入したことを、同じ班の班員に紹介する。 ○班の中で出た意見を、全体に向けて発表する。	○ウサ子は熊子の既読スルー（KS、既読無視）に腹を立てていたが、生徒自身が「LINE」でやりとりして自分の書き込んだことが既読されているのに相手から返信が来ない、というときの心の声（受け取り方）を、ワークシートに記入するよう、指示する。 ○心の声（受け取り方）とともに、そのとき感じている感情（怒りや恨みといった不快な感情など）を、ワークシートに記入させる。 ○班の中で司会と発表者を決めさせ、司会の進行で、書き出したことを班員に紹介する。 ○発表者が、班員の意見を全体に向けて発表する。	
○発表の内容から、人によって心の声（受け取り方）が違うことを確認し、心の声（受け取り方）を変えることで、感情をコントロールできることを理解する。	○発表と教師のまとめを聞き、人によって心の声（受け取り方）が違うことを確認し、心の声（受け取り方）を変えることで、感情をコントロールできることを理解する。	○ウサ子のような心の声（熊子はいつも返信が遅い上に既読スルー（KS、既読無視）もしている）と感情（怒り）ではなく、既読スルー（KS、既読無視）せざるを得ない何か事情がある、という心の声や、返信が来ないのは仕方ないととらえれば怒りや恨みといった感情にならない、という感情のコントロールの仕方を、発表の内容などから教師がまとめる。	

展	<p>(5) 物語では、熊子がなぜ既読スルー（KS、既読無視）しているのかを想像することなく、ウサ子は熊子に腹を立てていました。しかし、熊子がなぜ既読スルー（KS、既読無視）しているのかをウサ子が想像していたら、物語のようにならなかったかもしれません。あなたが「LINE」で相手とやりとりするとき、自分の書き込んだことが既読されているのに相手から返信が来ないとしたら、相手はどのような状況だと思いますか。いろいろと想像してみましょう。そして、相手の状況を思いつく分書き出しましょう。</p> <p>(6) 同じ班の人たちに、書き出したことを紹介してみましょう。</p> <p>(7) 班の中で出た意見を発表しましょう。</p>		
開	<p>○「LINE」のやりとりで、自分の書き込んだことが既読されているのに相手から返信が来ないときの相手の状況は、どのように想像できるかをワークシートに記入し、同じ班の班員に書き出したことを紹介する。班の中で意見をシェアした後、班の意見を全体に向けて発表する。</p> <p>○発表の内容から、相手の状況を想像することで、感情をコントロールできることを理解する。</p>	<p>○「LINE」のやりとりで、自分の書き込んだことが既読されているのに相手から返信が来ないときの、相手の状況を想像して、ワークシートに記入する。</p> <p>○ワークシートに記入したことを、同じ班の班員に紹介する。</p> <p>○班の中で出た意見を、全体に向けて発表する。</p> <p>○発表と教師のまとめを聞き、相手の状況を想像することで、感情をコントロールできることを理解する。</p>	<p>○熊子が既読スルー（KS、既読無視）したときの状況をウサ子が想像しなかったことが、熊子へのネットいじめに発展した一因になっていることを指摘した上で、生徒が「LINE」のやりとりで、自分の書き込んだことが既読されているのに相手から返信が来ないときの、相手の状況を想像するよう、指示する。</p> <p>○考えたことをワークシートに記入させる。</p> <p>○司会の進行で、書き出したことを班員に紹介する。</p> <p>○発表者が、班員の意見を全体に向けて発表する。</p> <p>○ウサ子のように、熊子がなぜ既読スルー（KS、既読無視）しているのかを想像することなく、怒りにまかせて腹を立てるのではなく、親と約束していた時間になったのでスマホを親に預けたから既読スルー（KS、既読無視）している、などと相手の状況を想像することで、怒りや恨みといった感情にならない、という感情のコントロールの仕方を、発表の内容などから教師がまとめる。</p>
まとめ	<p>○人によって心の声（受け取り方）が違うことを確認し、心の声（受け取り方）を変えることで、感情をコントロールできることを指摘する。</p> <p>○相手の状況を想像することでも、感情をコントロールできることを指摘する。</p> <p>○ワークシートを回収する。</p>	<p>○ワークシートを確認しながら、人によって心の声（受け取り方）が違うことを確認し、心の声（受け取り方）を変えることで、感情をコントロールできることを理解する。</p> <p>○相手の状況を想像することによっても、感情をコントロールできることを理解する。</p>	<p>○授業全体の流れを今一度ふり返り、人によって心の声（受け取り方）が違うことを確認し、心の声（受け取り方）を変えることで、感情をコントロールできることを指摘する。</p> <p>○相手の状況を想像することによっても、感情をコントロールできることを指摘する。</p> <p>○ワークシートを回収する。</p> <p>○スマートフォンのアプリ「LINE」の使用によって生じた「ネットいじめ」の事例から、人によって心の声（受け取り方）が違うことを知り、心の声（受け取り方）を変えることで、感情をコントロールする方法を理解している。</p> <p>○相手の状況を想像することによっても、感情をコントロールできることを理解している。</p> <p>→ワークシート</p>

6 本時の評価と手だて スマートフォンのアプリ「LINE」の使用によって生じた「ネットいじめ」の事例から、人によって心の声（受け取り方）が違うことを知り、心の声（受け取り方）を変えることで、感情をコントロールする方法を理解している。また、相手の状況を想像することによっても、感情をコントロールできることを理解する。

→ワークシートの記入状況を確認し、記入がうまくできていない生徒に対しては、個別に面談する。